

旬のカツオを追いかけ、一気に釣り上げる!!

遠洋かつお一本釣り漁業

どんな漁業なの?

遠洋かつお一本釣り漁船の大きさは360~500t(国際トン数で550~750t)で、近海のかつお漁船と比べると約4倍のサイズです。船の長さは60~65mで、スピードが求められるため、やや細長い船形をしているのが特徴で、日本では24隻の遠洋かつお一本釣り漁船が稼働しています。

この船で東沖漁場や南方漁場へ繰り出し、カツオの群を見つけると、生餌を巻いてカツオの群を船に寄せ付けながら、疑似餌を使って竿で一本ずつ釣り上げます。

遠洋かつお一本釣り漁業で漁獲したカツオは、竿で一尾ずつ釣り上げる漁法の性質上、傷や痛み、カツオに与えるストレスが少なく、刺身やタタキ用として市場に供給され、カツオ節の原料になることはあまりありません。

釣り上げたカツオは、すぐに急速凍結してマイナス45℃の魚倉で冷凍保存されます。凍結はマイナス20℃に冷却したブライン液(食塩水)にカツオを一本ずつ投入して急速凍結し、投入後もブライン液の温度をマイナス15℃以下に維持する等の厳しい基準を設けていて、この基準をクリアしたカツオは、B-1(ブライン凍結一級品)製品と呼ばれ、色や食味が非常に良く、解凍して刺身やタタキにすると鮮度に優れているので市場で高い評価を受けています。

かつお船には何人の乗組員が乗っているの?

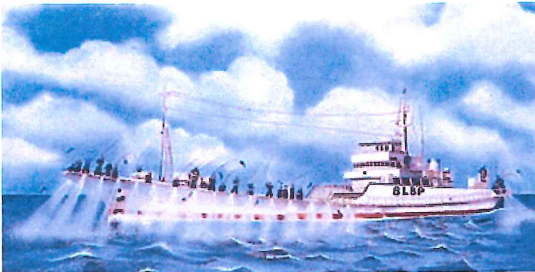
乗組員は26~33人で、漁労長、船長、機関長、通信長などの幹部職員と甲板長、冷凍長などの職長と一般乗組員で構成されています。日本人船員は、船によって多少の違いがありますが、概ね10~15名で、残りはインドネシア人やキリバス人などの外国人船員です。多くの国々出身の乗組員との共同生活のため、違った国の文化と接しながら互いに相手の文化と習慣を尊重する必要があります。

航海期間はどのくらいなの?

1回の航海は30~70日で、魚鱚が漁獲物で一杯になる都度、日本へ戻って水揚げを行います。そして3~4日で再び次の航海へ出て行きます。これを5~6回繰り返すと、概ね1年近くになるので、この時点で船をドック(修繕)に入れて30~40日程度の休船となり、毎年、この航海パターンを繰り返します。

どのくらいの収入があるの?

遠洋まぐろ延縄漁船と同じで、基本給+諸手当に水揚げ額に応じた歩合が支給されます。各地域にある労働組合支部との合意により給料が定められていることもまぐろ漁船と同じで、新人乗組員で、漁が悪ければ300万円ほど、好漁だと400~500万円の収入となります。経験を重ねて、海技資格を取得して船の幹部職員になると、この収入が1.5倍、そして漁撈長になると2~4倍になります。



どんな人材が求められているの?

遠洋かつお一本釣り漁船に乗船している乗組員の半分以上は外国人船員なので、新人乗組員には、それら外国人船員とうまくコミュニケーションをとって、気軽に相談できる人間関係を築くことが求められます。そして将来的には、漁労長・船長・機関長・通信長などの幹部船員となって、指導者として乗組員たちを牽引して行く人材に育つことが期待されています。

色々な国の人たちが混在する船の上で、外国の文化や習慣に親しみ、そして、相手の文化や考え方を理解することに努めれば、やがてはその人間的なコミュニケーション能力が、多くの外国人船員を指揮、監督していけるリーダーシップとなる筈です。

海技資格の取得方法は?

既に、海技資格を持っていれば、乗船時から即一航海士、二等航海士、一等機関士などの船舶職員として、責任ある立場で漁船に乗船することもあります。しかし、ほとんどの新人乗組員は、遠洋かつお一本釣り漁船に乗る時点で海技免状を持っていません。

だから、一般乗組員としての経験を積んで、目標とする海技資格の受験に必要な乗船経験を取得した上で海技資格取得試験を受けることになります。

船主としても、最初は海技資格を持っていなくても、将来的には海技資格を取得して、船の幹部船員に成長することを期待しています。

だから、海技資格を持っていなくても、やる気がある、将来、幹部船員となって船を引っ張って行く意気込みのある元気な人なら、漁業者は大歓迎です。

資源管理対策は?

近年、資源問題や環境問題が声高に叫ばれていますが、今のところカツオの資源に問題はありません。

多くの漁法がある中で、大きなカツオだけを漁獲対象としていて、資源を根こそぎ取ってしまうことがないので、遠洋かつお一本釣り漁業は、地球に優しい漁法とも言われます。



【コラム】古墳時代後期の遺跡からカツオの擬餌針

日本の漁業は、古墳時代(250年~593年頃)に、漁獲対象になる魚種や漁場に応じて、さまざまな形の釣り針や、漁法が考え出されました。漁法の発達は、古墳時代から飛鳥時代を経て奈良時代まで続き、遅くとも奈良時代までには、一本釣り、曳き釣り、延縄などの漁法の原型が考え出されていたようです。

千葉県白浜町の沢辺遺跡から、古墳時代後期のものと思われるカツオの曳き釣り用の擬餌針とともに、カツオの骨やウロコが出土していて、既に古墳時代後期には擬餌針を使った漁が始まっていたようです。

【豆知識】遠洋まぐろ延縄漁業で使うHサシメ

サバ・鯖

【豆知識】遠洋まぐろ延縄漁業で使うHサシメ

アオアシ・青鯖